

- 参加費 : 1,000 円程度の予定
- 昼食は小菅の湯で食べましょう。
- 締め切り : 4 月 30 日までに事務局までご連絡。

②源流祭りにおける展示の解説・講座

5 月 4 日は小菅村の「第 29 回多摩源流まつり」を開催します。当日、植物と人々の博物館（小菅村中央公民館）では、木俣美樹男先生による、縁側講座（日本塾講座）を開催し、展示の解説もしますので、ぜひぜひお越しください。

担当：木俣美樹男（植物と人々の博物館研究員）

※当日の博物館スタッフを募集中です～！！

③「第 38 回環境学習セミナー」

「第 38 回環境学習セミナー」を 9 月に予定しています。

主題：自然と暮らす知恵と技能を学ぶ。山村の生活技能・環境学習（冒険学校）

日時：9 月 3 日（土）午後～4 日（日）

場所：小菅村中央公民館、いつものキャンプ場など

座談会

話題提供：佐々木豊志氏（くりこま高原自然学校）

加藤源久氏（小菅村在住）

木下善晴氏（小菅村在住）

司会：中込卓男 自然文化誌研究会代表理事

講習会 小永田神楽見学、伝統技能実技講習など

④「雑穀街道」の取り組み

雑穀街道連携協議会の設置へ向けて

趣旨：雑穀や野菜などの在来品種に関わる生物文化多様性を保全しながら、地域資源を生かした山村の美しい暮らしを維持、振興を図るとともに、伝統的生活文化に関わる知識や技能を都市民に普及啓発するための連携協議会の設置を考えています。

呼びかけ：ミューゼス研究会（エコミュージアム日本村・トランジション小菅）

『藤農便り』 第 4 号

農業生産法人 藤野倶楽部

宮本 透（自然文化誌研究会）

早いもので藤野に移住して 1 年になります。藤野で過ごす初めての冬、部屋の中が凍る厳しい寒さは身にこたえましたが、相変わらず刺激的で楽しいイベントの連続で風邪を引くヒマもありませんでした。

・ Bio 市

昨年の春からふじのアートヴィレッジで第 1・3 火曜日に開催されていた「野山で*あさカフェ」ですが、トランジション藤野の土屋さんや飯野さんが運営スタッフの中心となって地元農家に呼びかけ、朝採り野菜市に発展したのが Bio 市です。記念すべき第 1 回は昨年 12 月 15 日、10 軒の農家が参加して開かれました。そのうち 6 軒がつくいやさいのメンバーで、各農家は収穫物や加工品を軽トラの荷台で販売、早朝 8 時からの開始にもかかわらずたくさんのお客様でにぎわいました。

回を重ねるごとに参加農家や食べ物販売の出店が増え、お客様が殺到した 2 月 2 日はアートヴィレッジの駐車場に入りきれない車で周辺の道路が渋滞、

パトカーが出動する騒ぎになりました。このため 2 月 16 日からは、会場を駐車場の広い百笑の台所に移して開催されています。藤野倶楽部は安心農園の津久井在来大豆、上野原市秋山特産長カブの切干しと漬物、麴や甘酒などを販売していますが好評です。

採れたて新鮮な野菜や手作りの農産加工品、藤野で栽培された雑穀など街のスーパーでは手に入りにくい安心安全な食べ物を、消費者が生産者から直接手に入れることのできる Bio 市はお客様にとって貴重な場です。生産者にとっても消費者の生の声を聞くことができ、仲間の農家との情報交換の場になる大切なものです。藤野での 2 年目、津久井の先輩農家からたくさんの事を学んでおいしい野菜を生産したいと思います。雑穀街道で秋に雑穀を収穫したら、Bio 市で真っ先に販売いたします。



百笑の台所・結びの家でのビオ市

・ WWOOF その 2

2号でタイ人ウーファーや WWOOF ジャパンへのホスト登録申請について報告しました。昨年9月に登録が認められ、日本のみならず外国からのウーファーが途切れることなく藤野倶楽部を訪ねるようになりました。

1月16日にやってきたのは台湾中興大学の3人のお嬢さんたちでした。中興大学は台北帝国大学農学部が発祥の国立大学で、彼女たちは園芸を学んでいます。農学専門のウーファーで、佐野川の茶畑管理や安心農園の土作りを担ってもらおうと作業計画を考えていました。日曜日のレストランの仕事を終え、翌日から農作業の予定でしたが18日の朝は一面の銀世界でした。農作業は雪かきに代わり、幹線道路から駐車場にある電気自動車用充電スタンドまでの通路を確保しました。2年生の2人は雪を見るのが初めてで、それで休憩時間に雪だるまを作って大はしゃぎ、記念写真を撮りました。滞在2週間の仕事は無形の家や百笑の台所の雪かきばかり、農作業はまづばに出荷するキャベツの収穫と麴・甘酒作りだけだったのが少し残念でした。

WWOOF 担当の役得で食事を一緒に作り、余暇にはアニメオタクの彼女たちに私の膨大なコレクションを提供、のうりんのコミックスやもやしもののDVD鑑賞等で交流を深めました。高校教員だったその昔、とある男子生徒から「マンガ読んでJKとトークするだけで、給料貰える仕事なんて最高じゃん」と言われたことがありましたが、WWOOF 担当はまさに最高の仕事かもしれません。休日には富士山へドライブもしました。山中湖や忍野八海を散策、河口湖で郷土料理の

ほうとうを食べ遊覧船やロープウェイに乗ったこと、ウーファーとの楽しい思い出がまた1つ増えました。にぎやかな彼女たちが去った日の夜、静かなフロアで「台湾エリートの彼女たちが偉くなったら、孫に『おじいちゃんはある人が学生の時、藤野倶楽部で面倒みて、一緒に富士山に旅行もしたのだよ』と自慢できますかね」と話して、社長に笑われました。



台湾からのウーファー

・ 麴・味噌作りワークショップ

今はなき学大職業科には食品加工という講義がありました。そこで麴の製造法を習得し、探検部の活動に役立てました。小金井祭の甘酒屋、国分寺にある日本の名水100選「真姿の池」の水で仕込んだどぶろく、春の農場の恒例行事だったやぼ耕作団との味噌作り・・・、今も色あせない青春時代の思い出の数々です。

教員になってからは、養護学校の作業学習で知恵遅れの子どもたちとコタツで麴を作り、味噌を仕込みました。定温器など無く、温度計とにらめっこしながらの作業でしたが、おかげで失敗しないコツを身につけました。農業高校に異動後も吉田島農林高校では1年だけでしたが食品製造の授業を受け持ち、実習では生徒たちと学校に泊り込んで麴室で汗を流し、1tの味噌を製造・販売したものです。

そのようなわけで、麴作りは私の数少ない特技の一つです。正月明けに社長が定温器を用意してくださり、新メニューの甘酒用の麴作りを任せられるようになりました。藤野倶楽部では安心農園で津久井在来大豆を栽培、役員の唐沢さんがワークショップで味噌作りをしています。唐沢さんと相談し、今年は麴作りと連続ワークショップを企画しました。藤野倶楽部HPやトランジション藤野のよろづ屋で参加者を募集し、麴作りに10名、味噌作りに24名が参加

してくださいました。

麴作りは私が担当し、昔の教材を元に資料を作成、道具をそろえて準備しました。平塚農業高校を解雇されてからは人に教える仕事が縁遠くなっていたので、とても緊張しました。麴に仕込む米の季節毎の浸漬時間、吸水した米の十分な水切り、蒸し加減、品温管理、甘酒の作り方等、私の経験から得たコツをお話しさせていただきましたが、参加者の皆さんは熱心に聞いてくださいました。唐沢さん担当の味噌作りと連続で参加された方も多く、秋の味噌の出来上がりが楽しみです。



麴作りワークショップ

<お知らせ>

藤野倶楽部は今年から INCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10% 割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その6

『冒険探検粉塵記

第 6 話 二言で世界を渡る法』

駄作者

文福洞先斗

冒険探検で世界各地あるいは日本各地を旅行して回るには、その土地、民族の言葉あるいは方言をできる限り覚えなくてはなりません。でも、ポンちゃんは言葉の習得が苦手で、まことに「困ったちゃん」です。人類学者たちは、調査地に住み込んで、住民の後を追いかけて、まず地方語を覚えます。植物学者は中尾佐助先生がおっしゃったように、観察、採集が主要な仕事ですから、あまり定住せずに、旅行して回りますので、言語習得はおぼつかなくても何とかします。でも住民の暮らし振りには深入りできませんので、住民も含めてそのフィールドを統合的に理解するには現地語の習得なしには、あまりにも不足です。なぜ、習得が苦手かと些末に及んで原因追及を試みました。

1) 人見知りと無口

今から思い出せば、ポンちゃんは子どものころから人見知りが強く、恥ずかしがり、無口で、自らはほとんど話しませんでした。いつまでもいじけてはいけない、無口を返上しようと思い、高校生の時には意を決して生徒会役員に立候補してみましたが、あっさりと落選しました。このままでは悔しいので、次の機会には敗者復活で懲りずにまた立候補しました。1600 人ほどの生徒や先生の前で演説するのはとても緊張します。そこで、おそまつ君の漫画を演説原稿に張り付けて、緊張をほぐしました。「また性懲りもなく立候補した」などと言ったら今度は結構受けて、先輩女子高生から「かわいい」と大好評で、高得票で当選しました。

2) 耳の発達不足

子どもの頃、まともな音楽を聴く機会がなく、父が珍しくプレーヤーとレコードを買ってくれたので喜んだ束の間、「私のラヴァさん曾長の娘」なんていう曲が流れて、がっかりしました。中学生の時には、音楽のペーパーテストは満点でしたが、通信簿で 5 がついたのは 1 回しかありませんでした。悔しいというよりも、自分が上手に歌えないのはつまらないです。裕福なうちの同級生たちは、交響曲だの、ビートルズだの聞いていました。当時、流行っていたのは、中尾ミエの「可愛いベイビー」など……。子どものときから良い曲を聴いて、耳鳴らさないと、だめだったのですね。ジャイアンのように、ちゃんと歌っているつもりですが、どうも音程が不安定です。しかし、大人になってからも、自動車を運転しながら聞くのは、昼間は荒井由実、夜は中島みゆきとかの難